W1192×H1112　喜連小学校案内板　壁付け型散策マップ　①

1 楯原神社

古代喜連北西の字楯原にあった式内社。明治40年村の全社を統廃合し村社となった氏神天神社を「許可を得て楯原神社と」改称。奥殿は喜連最古の1620年代築(大阪市指定文化財)。絵馬堂の釣鐘が神仏習合時代を伝える。

2 八坂神社

中世末字喜連地から遷座した東喜連村氏神牛頭天王社。近世中期字山王より媛天神、山王権現を合祀。神道令で八坂神社と改称し、明治40年現楯原神社に統廃合。昭和26年再建。

喜連は中世からの環濠集落でした。青く塗られた道路が環濠の跡です。昭和40年前後に環濠は下水道に変り道幅は広くなりましたが、今も環濠内には見通せないT字路や袋小路が残っています。外敵に備え巨大迷路のように設計された中世喜連城の町割り遺構です。また、環濠集落と外部の地域をつなぐ出入口には地蔵堂(①～⑦)があり、幕末まで門があった番所跡でした。喜連には江戸時代以前からの75体の地蔵・石仏があります。

喜連にはここに示すように歴史豊かな多くの寺社・地蔵があります。寺社と古民家を合わせると築100年を超える建造物が25件以上あり、喜連の歴史的な景観を醸し出しています。特に屋敷小路は江戸時代の雰囲気をより強く残しています。

① 北口地蔵

1530年代集落の北出入口に祀られ、1877年に地蔵堂が再建される。堂前には中高野街道で、広い軒は雨宿りに利用された。1955年頃まで堂北側の環濠には「松山模」があった。

② 西口地蔵

集落の西出入口に祀られ、堂内には首地蔵や「明治15年西金若中」銘の香炉がある。昔は葬礼や嫁入りの行列が堂前の道「中小路」を進行。堂西側には環濠の石垣が残っている。

③ 南口地蔵

集落の南出入口に祀られていたが、環濠の埋立てに伴い、現在地に移設。堂内には本尊の他2体の石仏があり、旧町割り「南町(みなんじょ)」の有志の講で護持されてきた。

④ 馬倉地蔵

南に架かる馬場先橋の向岸にあったが、環濠埋め立てで濠の会所桝上に移設。江戸時代はこの北側が馬繋ぎ場で、楯原神社鳥居までの幅4間、長さ80間の道が馬場であった。

⑤ 東口地蔵

集落の東出入口に祀られ、堂内の本尊両脇に小石仏が2体ある。堂の西側に1847年建立の大神宮常夜灯があった(楯原神社南入口に移設)。中喜連村の伊勢参り講の存在を示す。

⑥ 尻矢口地蔵

集落の東北(鬼門)出入口に祀られ、尻矢口とは旧喜連城(明如観寺)の後方矢口である。堂の東の大樟や北西の大銀(喜連幼稚園庭)の古木が今もかつての環濠風景を偲ばせる。

⑦ 東喜連南口地蔵

1816年村絵図から元は東喜連村南口の地蔵尊と思われる。今は南の河野村との中間点にある。堂内の2体の焼けた石仏が、中世の村を護り、1791年の堂建立に至る歩みを語る。

① 真言宗醍醐派 霊峰山 如願寺

寺伝では元は580年代聖徳太子創建の喜連寺。善法寺等7寺を擁す大伽藍だった。817年弘法大師が衰退を嘆き再建と伝える。大棟の鯱鉾、鬼瓦(兜形)の屋根は中世喜連城を想起させる。

② 真宗大谷派 中野山 賞圓寺

15世紀末久宝寺の慈願寺法円に帰依した西喜連村惣道場が前身。1630年白川郷中野照蓮寺の霊能を招き寺院化。耐震化解体修復で現本堂が1730年築と判明。

③ 真宗大谷派 空楽山 専稱寺

1571年僧恵光により本願寺末の道場開創。信玄公家臣の沼田重光が出家して空楽坊行傳と号し、山号もそれに由来。淀川区にある空楽寺の縁起を記す巻物を伝持している。

④ 融通念仏宗 南源院 遍照山 法明寺

1347年融通念仏宗中興の祖法明上人が創建。江戸時代は中本山で、鰐の5本線がその格式を示す。平成26年下別時開闡法圓群として、銅鐘鐘等13点が大阪市有形文化財に指定。

⑤ 融通念仏宗 一向山 専念寺

1597年に創建され、遊善上人が開祖。山号は経文「一向専念無量寿佛」による。寺には脈部規氏奉納の「大般若経」と十六善神図があり、毎年11月3日に大般若経転読法要を実施する。

⑥ 浄土真宗本願寺派 十方山 法性寺

1520年代蓮本善之亟玄了道場創建。宝永地震後蓮本博右衛門が再建し寺院化。江戸中期からの寺子屋を母体に明治5年学制発布でここに喜連小学校が誕生。廃絶した貴林寺の本尊・喚鐘を伝持。

⑦ 浄土真宗本願寺派 梅光山 教西寺

1531年道場が創建され、古代阿弥陀寺の本尊阿弥陀像を継承している。「天明七歳喜連河野村」の喚鐘銘は東喜連と異なる独自の村意識を伝える。平成27年老朽化に伴い再建。

⑧ 真宗大谷派 法輪山 傳了寺

1498年僧賞観が東喜連村惣道場として創建。親鸞聖人より先に蓮如上人絵像を戴いており、蓮如に帰依し、真言宗より改宗したことを物語る。阪神淡路大震災の3年後に本堂を再建。